

I. 神奈川県内 c. 海成・河成堆積物 (2) 中津層群 露頭剥ぎ取り標本

標本番号 KPM-NP 44

標本名 中津層群 露頭剥ぎ取り標本

大きさ KPM-NP 44-2 を部分的に切ったものが NP 44-1

KPM-NP 44-1: 幅 1.51 m, 高さ 0.75 m

KPM-NP 44-2: 幅 2.85 m, 高さ 2.05 m

重量 KPM-NP 44-1: 展示中のため不明、44-2: 13.4 kg

形状・展示・収納状況 板に固定した状態で常設展示（ジャンボブック展示室）、残りは巻いて大型移動棚に収蔵

採集地 神奈川県愛甲郡愛川町角田

緯度・経度 N35°32'22.3", E139°19'39.1"

標高 80 m

露頭の種別と現状 発掘による人工露頭、消失

露頭面の向き、傾斜 発掘露頭の東壁面（N20W）、ほぼ垂直面

走向・傾斜 およそ東西の走向、南に約 10° 傾斜

堆積物の種別 火砕質粗粒砂岩（海成層）

年代 鮮新世（中津層群神沢層）

採集作業 森山哲和（考古造形研究所）

採集立会い者 松島義章

採集日 1994 年 6 月 28 日

その他 長谷川ほか（1991）の図 4 が示した発掘露頭スケッチの東壁面が剥ぎ取り採集箇所となる。展示標本中央に見られるシルト偽礫の断面が、発掘露頭東壁面の標高 83 m 付近の位置するシルト偽礫に相当する。

関連文献等 長谷川善和・小泉明裕・松島義章・今永 勇・平田大二（1991）鮮新統 中津層の古生物。神奈川県立博物館研究報告（自然科学）, (6): 1-98.

解説 神奈川県立博物館が 1988 年 12 月から 1989 年 3 月にかけて愛川町角田にて行った化石発掘調査では、崖の中腹に、およそ高さ 2 m、幅 8 m、奥行き 4 m の範囲を掘削した。これはステゴドンゾウ頭骨化石の産出位置を中心とした掘削であった。その後、に行われた 1994 年の剥ぎ取り作業では、掘削面（東壁面）の脊椎動物化石を多数含む d 層およびその上位の f 層（長谷川ほか, 1991）を中心に剥ぎ取りを採集した。この剥ぎ取り標本の d 層の上半部を中心に切り取ったものが、生命の星・地球博物館ジャンボブック展示室に展示した剥ぎ取り標本である。d

層上半部にあたる展示剥ぎ取り標本では、細粒砂を主体とし、シルト岩塊（偽礫）や貝化石片を含む層が挟まれる。

記録者 田口公則

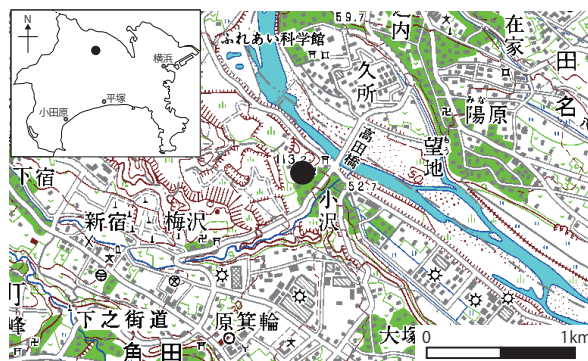


図 1c-2-1 採集地点（国土地理院発行の数値地図 50,000（地図画像）「埼玉・東京・神奈川」を使用）。



図 1c-2-2 剥ぎ取り標本の採集露頭（上）と採集の様子（下）。



図 1c-2-3 剥ぎ取り標本の写真（左：KPM-NP 44-1 ジャンボブック展示室，右：KPM-NP 44-2（展示用に切り取った残り））。